

目的 従来肥満婦人を対象とした個々のデータは数多くみられるが、グループによるデータのまとめは少ない。今回は肥満婦人を対象に教室を作り、栄養指導班によって指導を試み、測定班によって栄養指導に伴う体型の変化を調査した。特に今回は周径項目における減方状態の計測結果を報告する。

方法 毎月1回、午前10時、衣服寸法測定のための身体計測実施要領に準じて、体重ならびに周径4項目をマルチン式測定器を用いて測定を行った。

- 結果
1. 栄養指導に伴う周径項目の変化において、指導前と指導後の平均値の差の検定結果胸囲に有意差がみとめられた。
  2. 周径項目において栄養指導の効果が顕著にあらわれる項目は胸囲で、ついで胸囲、腰囲、首付裾囲の順であった。
  3. モリソンの肉付偏長折線を描いて、指導前と指導後と比較すると折線の動きはほぼ同じ傾向を示し、胸囲が他の項目よりもMに接近している。
  4. 胸部形態は指導後や、胸のくびりの強い体型に移行したが、相対的に肥満婦人の体型は、胸囲、胸囲に比べて腰囲の小さいお人胸体型である。
  5. 指導前と指導後において胸囲に有意差をみとめだが、季節変動と食生活と関連したため、各項目に有意差がみとめられるのではなからうか。
  6. 指導回数が増えるにつれて、指導効果が顕著にあらわれる者と、あらわれなからなかった者の個人差が大きくなった。